

第34回学校評議委員会 会議録

平成27年7月21日（火） 14:00～15:45

弘前高校応接室

出席者 学校評議委員 5名

学校側 校長、教頭（司会）、事務長、教務主任
進路指導主任、生徒指導主任、教務部員（記録）

1 校長挨拶

校長 : 学校の有り様について意見を述べていただく会は他にない。学校の運営その他に対して直接意見を頂く良い機会だととらえているので、是非それぞれの立場から忌憚のない意見を頂きたい。

2 校内一巡

校内一巡（ねぶた制作見学）

3 意見交換

校長 : 学校経営方針について説明いたします。「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」という「目指す人間像」は小田桐孫一校長先生が定められてから、ずっと受け継がれてきました。それと同時に決まったのが、自学自習・規律ある自由・体力の増進の3つの柱です。どれが1番ということもなくこれまでやってきましたが、今の世の中に対応していくためにどれに重点を置くかと考えると、「自学自習」が1番なのではないかと考えています。ただ単に一人で学習するというのではなく、自らが課題を見だしそれをどのように乗り越えていくかという視点から、何を学ぶかというものを踏まえた学習態度を身に付けさせていくということです。そういったことができるような教育環境を整えていきたいと考えております。

また、今年度力を入れていきたいのは、県高校教育を牽引していく弘前高校を目指すということです。現中学2年生から大きな変化をもたらす教育改革が進んでいますが、それに先行して対応していきたいと考えています。改革をするといっても、形は変わるかも知れませんが、どのような生徒を育てたいかという内容はこれまでと変わりません。子ども達を伸ばしていくために、「ねぶた」を中心とした総合学習等の探究活動を取り入れていきます。県の教育改革も進んでおり、20年後には生徒数が半減すると言われていますが、その時に弘前高校はどう在れば良いのかということについても考えなければならぬと思っております。

先生方の授業改善にも力を注いでいきます。子ども達にどのような力を身に付けさせていくのかということに視点をおき、時代に敏感に対応していくという心構えで臨んでいきます。

教頭 : 最初に学校側から説明しましてから、ご意見を頂きたいと思えます。

「平成26年度学校評価結果報告書」をご覧ください。3については、自己評価やご意見などからも改善を要するという結果が出ました。我々学校側としても、各関係機関との連携を強化していきたいと考えております。

では、続きまして教務部、生徒指導部、進路指導部から平成27年度の重点努力目標と現在の取り組みについて報告いたします。

教務部 : 平成27年度教務部は、努力事項の中でも以下のことに重点を置いて取り組んでいきます。主体的な学習態度の育成と確かな学力の定着のために、アクティブラーニング型の研究授業や公開授業を計画しております。また、生徒に提示するシラバスの改善など

にも取り組んでいるところです。今後新テストが導入されます。センター試験が廃止され高校在学中に基礎学力テストや、大学入学希望者学力評価テストに変わるということで、本校に相応しい教育課程をどのようにすればよいか検討中です。

今年度は指導要録の電子化をすることになっており、現在は最終的な調整の段階に入っております。また、この会議での指摘や今後実施される公開授業後の保護者アンケート等を受けて、改善に向けて努力していきたいと考えております。

以前、教務で作成しているホームページの更新が遅いもしくは頻度が少ないという指摘がありました。昨今写真や文章表現等の個人情報の取扱いが難しくなっている状況ですので、教員間で入念な確認をした上で載せているためどうしても時間がかかっています。けれども、今後はなるべくタイムリーな話題を載せていきたいと考えております。

生徒指導部 : 平成27年度の生徒指導部重点努力目標5項目について説明します。まず1つめに安全教育の徹底を上げています。2つめは挨拶をはじめとする基本的な生活習慣の確立です。3つめは、自治会活動や部活動について、それらの活性化を図っていきます。4つめは諸行事を円滑に実施することです。今が1番忙しい時期となっておりますので、生徒の活動を支援していきます。5つめは教育環境の保全です。事務部と協力しながらより良い環境の整備に努めており、今年度防犯カメラの設置も行いました。

苦情や事故等に関しては、今日現在で苦情は0件、事故は5件でした。今年は特に4月下旬に自転車事故が3件続けて発生しましたが、その後落ち着いて、多発しがちなゴールデンウィークは1件もありませんでした。7月に入って2件発生し現在に至っています。

6月に行われた高校総体での結果です。団体戦優勝は残念ながらありませんでした。しかし3つの部で、団体2位までに入賞しました。水泳部の生徒が結果を残し、県大会でも毎回新記録を更新しています。馬術部の生徒も東北大会で優勝し、インターハイに出場します。夏休みに全国大会に出場する部活は、将棋部・写真部・放送局・文芸部・ボーリング部・テニス部・馬術部と、先日の大会で水泳部の出場も決定しました。

部活動の加入率は、他の高校より比較的多く9割を越えています。進学校としては、かなり高い加入率だと思われます。今後も部活動と勉強との両立に頑張ってもらいたいものです。

進路指導部 : 進路指導部では、昨年度から自学自習体制を構築しよう、合格者というよりは挑戦者を増やそうという方針で取り組んできました。今年度は、昨年度の取り組みをベースとして置きながら教員の指導力を向上することと、教育改革の大きな変化へきちんと対応していこうということを大きく掲げています。

一点目の昨年度から取り組んでいる自学自習体制の促進については、今どのくらい勉強しているのか、何をどのように取り組んでいるのかという調査を行った上で、それに対する手を打っていくことを実施しています。また、それらに加えて自学自習をしたくなるような、学ぶ意義や生きていく志を育むような働きかけをしていく活動や講演会を取り入れています。

今年度の進路講話には、昨年11月「夢の扉」にも出演された、環境問題及びエネルギー問題の解決に向けて取り組まれている開発の第一人者の方に来ていただきました。また、現在2年生は課題研究に取り組んでいます。優秀なチームには、大学の先生達の前で自らの研究を発表しコメントをもらうことができる機会を与える、というような働きかけをしています。このように生徒にやる気を出させるような仕掛けを考え今後も実施していきます。

二点目は連携です。進路に関する様々な取り組みは、決して進路指導部だけでできるものではなく、各分掌や学年、教科などと連携が非常に重要です。最近は転勤のサイクルが短くなっていることや、若手の先生方が増えていることに伴い、しっかりと教科指導力をつけていかなければと考えています。校内で実施する学力テストは、東北大入試レベル程度のもので規定していますが、それをしっかりと作り上げられるように作題力を向上させていくことを目指していきます。

ただ生徒達が先生の話聞いて書くだけの授業ではなくて、頭の中がアクティブに活

動できるような授業を展開できるように、キャリア教育等改革推進委員会とも連携して研修会を開いていきます。

また、進路資料の整理や今まで学年がやっていた細かな仕事を簡略化したり、進路指導部で担ったりして、生徒に力が注げるような環境作りをしていきたいと思えます。

進学先の徹底分析と研究は、大学入試ではAO入試が導入されるなど、学力だけではなくて高校で何をしてきたのかが問われるようになってきました。それに対応していくためには、まずは各大学がどのような選抜方法を行おうとしているのかを、徹底して研究・分析していこうと考えています。教育改革はゆっくりと確実に進んでいます。気づいたら変わっていたという状況に陥らないように、手を打っていかねばいけません。この伝統校に於いて、何を变えていくのか、何を变えてはいけないのかを明確にしながら、変化に対応していきます。

また、進路指導調査及び学習調査をつけましたのでご覧ください。

教頭 : これまでの説明に対しての質問や要望などをこれから伺いたいと思えます。

校長 : 今年は1クラス減になりました。来年度再来年度と徐々に少なくなり、教師の数も減らされていきます。クラス減に伴い、空き教室の活用について話題にりましたが、結局空き教室のまま自由に使用することになりました。

評議員

大谷雅行氏 : 説明には出てきませんでした。来年選挙権に関する改正がありますが、高等学校としては何か特別な取り組みはあるのでしょうか。

校長 : まだ国からの指針も、その後の県からの指針も出されておられません。問題点などの検討が行われるものですが、今の段階ではまだ何とも動きにくい状況ではあります。また、子ども達が集まって色々な活動ができるわけですが、単独で行えるものではありません。学習の中で政治意識を深めることはできるかもしれませんので、地歴公民を中心とした様々な教科の中で、そういった意識を高めていければと考えております。

評議員

大谷雅行氏 : キャリア教育の一貫としても対応できると思えます。それによって目的意識を持つことができずし、自分自身の勉強のやりがいにもつながっていくことと思えます。

評議員

敦賀鉄正氏 : 指導の際には、学校側としても中立性を保たなければならず、非常に難しいところだと思えます。

評議員

三國典昭氏 : 先ほど、部活動の加入率が高いという話がありましたが、それは非常に良いことだと思えます。例えばAO入試などで個性をアピールする場面でも、部活動で培った精神が力を発揮すると思えます。

進路指導部 : やはり部活動などでしっかりとしたポジションで活躍した生徒の多くは、自分自身がこのようなことをしてきたということ、志望理由書に書いています。

評議員

三國典昭氏 : 同好会というものは、学校ではどのような扱いになっているのでしょうか。

生徒指導部 : 学校側ではただ許可しているという扱いです。生徒達が自主的に活動を行っているもので、今年も「なぎなた」や「自転車」が新規に認められました。

校長 : 部活動も県内の高校の中で一番多いのではないかと考えられます。

教頭 : そのため先生方も部活動を兼部するのが当たり前の状況です。

生徒指導部 : 盛り返してきた部もあれば、人数が減ってきている部もあります。

評議員

大谷雅行氏 : 格闘技系の競技は、敬遠される傾向はないでしょうか。

教務部 : 空手部の顧問をしてしておりますが、やはり大会に行って開会式などを見ていると、出場する生徒が少なくなってきたことがよく分かります。

生徒指導部 : やはり危険なものに関しては、やらない傾向になってきているようですね。

評議員

三國典昭氏 : ダンス部が増えていますね。服装などが目に付くというようなことがこの会議でも取り上げられたこともありました。

教頭 : 服装等で気になることもありますが、部活動としてはきちんと活動しています。

生徒指導部 : 高総文では、軽音部やダンス部などは入っていないので、生徒減になってきた場合どうなっていくのかというのが課題になっていきそうです。

評議員

宮澤田鶴子氏 : 今年はいじめが0件だということなのですが、いじめの前段階として不登校になる生徒がいるのではないかと思います。そういった傾向のある生徒もいるのではないのでしょうか。

生徒指導部 : いじめに関する不登校はありません。自分なりの問題を抱えて、登校が難しいという生徒は何人かいます。いじめに関しては、必ず調査を行い確認をした上で数値を出しています。夏休み明けにもまた実施する予定で、年3回実施しております。

評議員

宮澤田鶴子氏 : 東大5名合格おめでとうございます。色々対策をしていたのを聞いておりましたが、その結果なのではと、嬉しく思っています。評議員として見ていて、勉強をする意欲が湧くような取り組みをされているなと思いました。

全く別件に関する確認です。前回の会議録では評議員の名前が載っていましたが、名前を載せる意図はなんのでしょうか。

校長 : 前回も会議の前にお断りしたと思いますが、どなたがどの立場でご発言なさったかということをお明らかにするという意図で、前回から載せさせていただくことになりました。

評議員

塩崎裕子氏 : 先ほどお話しありましたが、昨年の進路の結果というのは在校生の生徒や保護者にも大変良い影響があるということが耳に入っております。先生方の取り組みが浸透してきていると感じています。また、学年からの通信に関しても影響が大きいようで、通信を多く出している学年の保護者は様子が良く分かると聞いています。こういったことも関係しているような気がします。

中学校と違い通学時間がかかる子どももいると思いますが、勉強と部活動の両立に関してどのようにお考えですか。

進路指導部 : 全ての生徒が完璧に両立できているかという点、そうではないかもしれません。状況によって部活動に力を入れたり、勉強に力を入れたりと何とかその時々を過ごしながら3年生まで凌いでいって、部活がなくなった後半にぐっと伸びていくというのが本校生徒の傾向のように思います。

最近では担任との面談が密になりましたので、何が辛いのか何で躓いているのかということに対して、より目が行き届くようになりました。その際、担任が励ましやアドバイスなどのサポートを行っています。

校長 : 弘前高校は19:00まで、他の進学校と比べて部活動の時間が30分長く設定されています。このことは、部活動もしっかりと取り組もうという意図で行っているものです。

今年から前期後期ではなく、一発入試となりました。特色化・一般選抜というものがあり、どちらを先にするかという問題がありますが、本校は他校と違い、入試の際に部

活動をしっかりと判断材料として見るという形態を残しています。そういうことから部活動に力を入れるという考えが根付いているといえます。

評議員

敦賀鉄正氏 : ホームページの更新をいつも楽しみにしております。保護者も学校に関心を持つのではないかと思いますので、これからも引き続きお願いします。

また、学習状況調査に関してですが、1年生の4月のデータで、ほとんど勉強しないというのが他の年よりも多いのがとても気にかかります。これはまだ何も始まっていない段階での調査ですので、11月の再調査に向けて家庭でも指導していきますが、学校での取り組みはあるのでしょうか。

進路指導部

: この調査は入学してすぐの調査なので、中学校での姿勢が反映されているのだと思いますが、やはり家庭学習状況調査で、「ほとんど勉強しない」と回答した生徒が、平日16.3%、休日8.8%と高い数値であったことは気になります。これは勉強の仕方が分からないということの現れでもあると思いますので、中学校から高校に変わった段階での学習方法の変化が、大きく影響されているものと思います。

例えば、中学校での家庭学習は復習中心で、「一人勉強ノートを1日1ページ埋める」というような内容で行われます。高校では教科数も増え、復習だけではなく予習も必要になります。家庭学習で何をどうすればよいのか具体的に支援することが大事だと思います。学年でもその点に問題意識を持っていることが、先日話題になっていました。現在1学年では具体的な指導が入っています。

評議員

敦賀鉄正氏 : 中学校では課題が与えられていたのですが、弘前高校では自らが課題をみつけて勉強する自学自習ということで、学ぶ意義や意欲などを重視する取り組みについて大変期待しています。宜しくお願い致します。

進路指導部

: 中学校までの学びと高校での学びに大きな段差があるのですが、これまではそれを生徒が越えてくるのは当たり前だととらえていました。しかし、本当に大きな段差なので、中学校までの方法でコツコツ努力してきた子が、高校での勉強方法について行けずに挫折をしてしまうことがもしかしたら多いのではないかと、という観点から我々は初期指導に時間を取る必要性を感じています。来年度からは特に、予習や復習の仕方などに関して、まずは丁寧に指導していく計画を始めているところです。

教頭

: 部活動も1年生は早く帰していますよね。

進路指導部

: 1年生の段階で、レギュラーになっている生徒は別として、まずは学校生活に慣れるために初期の段階では早めに帰していると思います。

評議員

大谷雅行氏 : やはり学習に関しては、高校の学習というのはこうなんだという一言が欲しいです。市内ではあまり段差は感じないかも知れませんが、特に郡部から来た生徒からは、見えないものがあると思います。一番最初に心構えをしっかりと伝えてもらいたいです。

教頭

: 最初の授業1~2時間を使って、ノートの取り方や予習復習の仕方など丁寧に指導するというのを来年度から実施していけるよう検討していきます。

校長

: シラバスに関しても統一したものが無いので、最初の授業にシラバスを見ながら学習方法を指導していけるように検討しているところです。

評議員

大谷雅行氏 : 運営を円滑にするために新しい方法を取り入れていくという話が先ほど出て、それによって先生方の労力を軽減していくという見方もありますが、一番心配なのは情報管理についてです。もし紛失した場合は、1ページの書類を紛失したのという訳にはいなくなってしまいます。二重三重に管理に気をつけて欲しいと思います。細心の注意を払っていくという意識をもってもらいたいです。

教頭 : セキュリティーに関しては、十分気をつけていきます。これまでも校内の規程などがありますが、電子化においても再度注意を払っていくつもりです。

評議員

大谷雅行氏 : これは個人的なミスでは許されず、組織的な失態となってしまいますので、注意してし過ぎることはありませんので宜しくお願いします。

校長 : そういった意識を再確認していきます。

終了 15 : 45